

平成26年度 山口県文書館古文書実践講座テキスト

2 四国旅日記を読む(二)

―柳井市金屋小田家文書「四国巡拝道中記」―

根生危嶺野公能及遠以の
之國國故行

△雲白邊寺其建乎

本尊手平手觀音

常子地中深淵古松林野

阿公手一送雲一

今力不七方と多常寺寶物

法華傳何う其在極名

素坊今 徳安の

正安寺分其好誠字

そ口音風集よる字

の万新武の下り其成極

カクシノミヤノ海首河ノ志士
口行ノ志士ノ言ノ事
アノ井村ノ事ノ村ノ事
可シ

△小松尾寺 二重

本尊 薬師如来

嘉治二年のりりり村

法界再興寺ノ事ノ事

新嘉治二年ノ事ノ事

町ノ事ノ事ノ事

けり申領村ノ事ノ事

新羅の白雲寺に在りて
有るなり。○十七
如之は毎年の節に傳はるなり

△琴彈八幡 子

本尊阿彌陀佛

弟は江戸に在りて可なり
と云ふは海に在りて見
るなり。又後人の
と云ふは江戸に在り
て可なり。

△観音寺 土堂里

本尊正観音

此の寺は江戸に在りて可なり
と云ふは江戸に在り
て可なり。

△本山寺

三里

本尊 馬頭觀音

平池南に華光寺あり
 鐘の音縁奇甚なり
 安土村より道に逢ふ
 寺ありて名は
 下り領の教の地元の寺なり
 け者くそ茶飯者のものなり
 繁盛ありてけ者くそ
 古所の古地なり
 けりけり

△弥谷寺

一里

本尊 牛手観音

比上角より古所にて
 名はけり

王の御世に是の御代に御成り
古所古より又の御代に御成り
夫不吉なりと云ふ御代に御成り
あり一は御代に御成り
虫村 若らと云ふ御代に御成り
万陀摩の御代に御成り
今世の御代に御成り

△ 出 教 迎 寺 寺

本尊 釈迦 如来
南無阿弥陀仏

△ 曼 陀 羅 寺 寺

本尊 大日 如来

はる 幸地 御代に御成り
水 御代に御成り
寺 御代に御成り

五岳の道新
心より厚くしん

名しんじつ
芳新

○五岳山に七峰を大所
しんじつ
こし

△甲山寺 十十
本尊 薬師如来

△善通寺 貳里
本尊 薬師如来

△法王寺 大徳寺
大徳寺法王寺
法王の寺
法王の寺
法王の寺

心がなまらぬにやうに○大徳(大徳)

△今(今)は(は)春(春)の(の)末(末)の(の)方(方)に(に)
し(し)可(可)く(く)名(名)の(の)地(地)を(を)左(左)に(に)治(治)

百(百)年(年)と(と)ま(ま)さ(さ)し(し)て(て)○十(十)九(九)日(日)

十五(十五)年(年)丁(丁)未(未)の(の)春(春)の(の)初(初)め(め)に(に)行(行)き(き)し(し)り(り)
村(村)に(に)あ(あ)ら(ら)ず(ず)あ(あ)ら(ら)ず(ず)合(合)さ(さ)し(し)て(て)村(村)

△金(金)谷(谷)君(君)寺(寺) 三(三)寺(寺)

本(本)尊(尊)寺(寺)廿(廿)步(步)御(御)衆(衆)

寺(寺)地(地)七(七)町(町)

△道(道)隆(隆)寺(寺) 一(一)里(里)半(半)

本(本)尊(尊)寺(寺)廿(廿)步(步)御(御)衆(衆)

寺(寺)地(地)七(七)町(町)九(九)里(里)半(半)

寺(寺)地(地)七(七)町(町)九(九)里(里)半(半)

寺(寺)地(地)七(七)町(町)九(九)里(里)半(半)

△道場寺

一里半

本尊阿彌陀如来

此寺藏下等之断言本殿者
ゆきの敷地の中より北山阿彌陀
寺に法書と法書中一石あり
所のゆきの敷地と云ふ
高きと云ふ即ち第七の文
高きと云ふ即ち第七の文

○^二福^一 此寺のゆきの敷地

壇宮のゆきの敷地

△宗徳天皇 一里半

本尊土面御尊
此寺のゆきの敷地
此寺のゆきの敷地

高き不更其く懐き候に
看候と申し候事候
此の事候に當り
向ふ方より
修行し候成

△ 白峯寺 寺

本尊 今年初音

白峯寺の
為に
法
候
根

此の
白峯寺
候

又其版馬ノ糞を以て

首を白く染めたる者あり

十のち丁に行きたるは縁法

松河の園



本尊の御本願 根來寺

初めの御願は 善言殿に

奉る者何れも 是く御本願

念ふに及ばぬ 事候と

御本願の御本願 念ふに及ばぬ

事候と念ふに及ばぬ

△ 根來寺 三十一

本尊十年御音

また心もあはれなる御音